

新臨床内科学

阿部正利
田本間臣
崎義昭

岡部治弥
高久史麿

編集

新臨床内科学

編集

阿部正和
(東京慈恵会医科大学教授)

日野原重明
(聖路加国際病院医長)

本間日臣
(順天堂大学教授)

岡部治弥
(北里大学教授)

田崎義昭
(北里大学教授)

高久史麿
(自治医科大学教授)



医学書院

新臨床内科学

<検印省略>

¥ 8,500

1974年9月15日発行 第1版第1刷

1975年1月15日発行 第1版第3刷

編者代表 阿 部 正 和

発 行 者 株式会社 医学書院

代表取締役 金 原 元

東京都文京区本郷 5-24-3

郵便番号 113-91

電話 (03) 811-1101

三報社印刷・学術学真製版・小島製本

3047-11096-0305

本州製紙/特アイリス/B68kg

PRACTICE OF INTERNAL MEDICINE

Edited by

MASAKAZU ABE, M.D. *Professor of Internal Medicine, The Jikei University,
School of Medicine*

SHIGEAKI HINOHARA, M.D. *Senior Staff of Internal Medicine, St. Luke's
International Hospital, Tokyo, Japan*

HIOMI HOMMA, M.D. *Professor of Internal Medicine, Juntendō University,
School of Medicine*

HARUYA OKABE, M.D. *Professor of Internal Medicine, School of Medicine,
Kitasato University*

YOSHIAKI TAZAKI, M.D. *Professor of Internal Medicine, School of Medi-
cine, Kitasato University*

FUMIMARO TAKAKU, M.D. *Professor of Internal Medicine, Jichi Medi-
cal School, School of Medicine*

© First edition, Sept. 1974

IGAKU SHOIN Ltd.

TOKYO · JAPAN

Printed & Bound in Japan

序

学生にとっても、研修医にとっても、さらにまた実地医家にとっても、内科臨床をどのように学んだらよいか、常に悩んでおられることと思う。広汎な内科学、絶えず流動的に躍進して、とどまるところを知らない内科学、しかも臨床医学の基礎としての内科学、私たちの心を魅了してはなさない内科学、この学問をどのように学んだらよいか、悩みをもつのは当然のことであろう。

内科学における診断と治療を中心に、各種疾患の概念や考え方について、up to date の最新知識を要領よくとりまとめた臨床内科書は皆無であるといってもよい。なるほど信頼に足る内科学の教科書はわが国にもいくつかあるが、本書は決して単なる内科学教科書の役割を果たそうとしているものではない。ベッドサイドで、すぐに、しかもそのまま診療に役立つガイドブックとしての役割を演じさせようとして編集されたものである。

年とともに進展して行く内科臨床の最新の知識を簡単明瞭に記載して、実地診療に役立てたいという編集者の願いが本書にはこめられているのである。

いま、本書の特徴の 2, 3 をとりまとめてみると、つぎのようになる。

- 1) 診断と治療に対する心構え、考え方をまず述べ、ついで病歴の作成を problem oriented system を中心に行なうようすすめていること。
- 2) 各種内科疾患をもった患者を診療する際に、基本的に重要な水・電解質代謝の障害、あるいは内科以外の臨床各科の技術、とくに皮膚病変および眼底のみかたを解説したこと。
- 3) 救急患者のみかたについて、きわめて要領よくとりまとめていること。
- 4) 各種の内科疾患について、概念・臨床所見・検査所見・診断・鑑別診断・経過と予後・治療の順序で簡潔しかも明瞭に記載し、知識の整理に役立てていること。
- 5) 重要にして、しかも手もとに求めやすい、いくつかの文献をあげて、さらに勉強を深めることができるように配慮してあること。
- 6) 最後に、内科医としてぜひとも理解しておかねばならない遺伝性疾患の基本的な考え方を、わかりやすく解説してあること。

なお、本書は医学書院が 1959 年以来、毎年、版を新たに刊行している「今日の治療指針」の姉妹編として活用できるように配慮してあることも一つの特徴といえよう。

わが国の医家の多くの方々が「今日の治療指針」を座右において利用されていると思うが、本書をこれと並べて desk reference としてお使いになられたら、本書の利用価値は一層高められるものと信ずる。

最後に編集者として一言おことわりしておかねばならないことがある。それは用語の統一という点で若干の問題点が残されているということである。1 例をあげれば、サルコイドーシスとサルコイド

ージスという2種類の用語が使用されている。いずれか一方に統一すべきことは当然であるが、諸種の事情によりそれが果たせなかった。いずれ改版の機会には、この点に意を用いて統一を果たすことをお約束したい。

本書が皆さんの日常の内科臨床に真に生かされることを願うとともに、忌憚なきご批判とご意見をお寄せ下さるよう希望するものである。

1974年9月1日

編者ら

執筆者一覧 (執筆順)

総論

- 阿部 正和 東京慈恵会医科大学教授
 日野原重明 聖路加国際病院院長
 飯田 喜俊 大阪府立病院部長
 大阪大学講師, 大阪市立大学講師
 西山 茂夫 北里大学教授
 清水 弘一 群馬大学教授
 高階 経和 神戸大学講師, 淀川キリスト教病院科長

呼吸器疾患

- 本間 日臣 順天堂大学教授
 中村 昭司 東京大学医科学研究所
 松本 慶蔵 長崎大学教授, 熱帯医学研究所
 荻間 勇 新潟市民病院副院長
 島尾 忠男 結核予防会結核研究所副所長
 福島 孝吉 横浜市立大学教授
 宮本 昭正 東京大学医学部
 田村 昌士 虎の門病院主任医員, 順天堂大学講師
 村尾 誠 北海道大学教授
 宝来 善次 兵庫医科大学教授
 鈴木 明 国立がんセンター病院医長
 杉山浩太郎 九州大学教授, 胸部疾患研究施設長
 吉良 枝郎 順天堂大学助教授
 泉 孝英 京都大学結核胸部疾患研究所
 萩原 忠文 日本大学教授
 勝呂 長 日本大学講師
 吉村 敬三 東京大学助教授

循環器疾患

- 日野原重明 聖路加国際病院院長
 坂本 二哉 東京大学医学部
 平川 千里 岐阜大学助教授
 安田 寿一 北海道大学教授
 雨宮 武彦 済生会兵庫果病院部長
 伊藤 良雄 東京大学教授
 竹内馬左也 東京大学講師
 宮下 英夫 帝京大学助教授
 高木 誠 京都市立病院部長
 河合 忠一 京都大学教授

- 尾前 照雄 九州大学教授
 中村 治雄 慶応義塾大学講師
 伊藤 巖 東京大学助教授
 太田 怜 自衛隊中央病院医長
 三島 好雄 東京大学講師
 関 清 東邦大学教授

消化器疾患

- 岡部 治弥 北里大学教授
 西山 茂夫 北里大学教授
 松尾 裕 東京大学医学部
 三好 秋馬 広島大学教授
 新関 寛 北里大学講師
 吉川 保雄 順天堂大学講師
 林 学 千葉大学医学部
 熊倉 賢二 慶応義塾大学教授
 白壁 彦夫 順天堂大学教授
 栗原 稔 順天堂大学講師
 増田 久之 秋田大学教授
 井上 幹夫 福岡大学教授
 橋本 純一 北里大学講師
 吉田 豊 弘前大学助教授
 織田 貫爾 順天堂大学医学部
 井口 潔 九州大学教授
 丸山 雅一 癌研究会付属病院
 並木 正義 北海道大学助教授
 笹川 力 新潟市民病院部長
 石川 誠 東北大学助教授
 高橋 恒男 東北大学講師
 島田 宜浩 岡山大学助教授
 織田 敏次 東京大学教授
 市田 文弘 新潟大学教授
 亀谷麒興隆 慶応義塾大学講師
 奥村 恂 福岡大学教授
 柴田 久雄 北里大学助教授
 西村 好雄 厚木中央医院
 大藤 正雄 千葉大学医学部
 安部 宗顕 国立病院九州がんセンター医長

代謝・栄養疾患

阿部 正和 東京慈恵会医科大学教授
 種瀬 富男 東京慈恵会医科大学助教授
 後藤 由夫 弘前大学教授
 大平 誠一 弘前大学医学部
 高月 清 京都大学講師
 阿部 達夫 東邦大学教授
 和田 攻 東京大学助教授
 伊丹 康人 東京慈恵会医科大学教授
 北川 照男 日本大学教授

内分泌疾患

阿部 正和 東京慈恵会医科大学教授
 湯地 重壬 北里大学助教授
 藤田 拓男 東京大学講師
 井村 裕夫 神戸大学教授
 清水 直容 帝京大学助教授

血液・造血器疾患

高久 史磨 自治医科大学教授
 野村 武夫 東京医科歯科大学助教授
 内野 治人 広島大学教授
 三輪 史朗 山口大学教授
 前川 正 群馬大学教授
 山田 一正 名古屋大学講師
 柴田 昭 秋田大学助教授
 入野 昭三 岡山大学講師
 高月 清 京都大学講師
 太田 善郎 愛媛大学助教授
 安永幸二郎 京都大学講師
 青木 延雄 自治医科大学教授

腎・尿路疾患

宮原 正 東京慈恵会医科大学教授
 田仲謙次郎 宮崎医科大学教授
 佐藤 仁 三井記念病院部長
 東福寺英之 慶応義塾大学助教授
 国井 乙彦 東京大学医科学研究所
 越川 昭三 東京医科歯科大学助教授

神経系疾患

田崎 義昭 北里大学教授
 大友 英一 浴風会病院
 荒木 淑郎 川崎医科大学教授
 永松 啓爾 鹿児島大学助教授

平山 恵造 順天堂大学助教授
 祖父江逸郎 名古屋大学助教授
 杉田 秀夫 東京大学講師
 古和 久幸 北里大学助教授
 本多 虔夫 横浜市民病院院長
 筒井 末春 東邦大学助教授

アレルギー性疾患・膠原病・免疫病

堀内 淑彦 東京大学教授
 中川 俊二 九州大学講師
 宮本 昭正 東京大学医学部
 広瀬 俊一 東京大学医学部
 本間 光夫 慶応義塾大学助教授
 合屋 長英 九州大学教授

感染症・寄生虫疾患

鵜飼新一郎 東京都立豊島病院院長，日本大学講師
 加藤 貞治 東京都立荏原病院院長
 大貫 寿衛 済生会中央病院院長
 小林 譲 愛媛大学教授
 吉田 久 東京医科歯科大学教授
 海老沢 功 東京大学講師，東邦大学講師
 勝 正孝 川崎市立川崎病院長
 慶応義塾大学客員教授
 深谷 一太 東京大学医科学研究所
 皆見紀久男 久留米大学教授
 木原 疆 川崎医科大学教授

中毒・環境要因による疾患

徳臣晴比古 熊本大学教授
 伊津野良治 熊本大学医学部
 三好 秋馬 広島大学教授
 日野 志郎 東京通信病院部長
 三上理一郎 東京大学医学部
 石崎 龍雄 自衛隊衛生学校室長
 橋本 省三 北里大学教授
 佐竹 辰夫 名古屋大学講師
 沢井 芳男 日本蛇毒学術研究所長
 小松崎 篤 東京大学講師
 藤田 五郎 自衛隊衛生学校教育部長

遺伝性疾患の考え方

大倉 興司 東京医科歯科大学助教授

〔付〕正常値

林 康之 順天堂大学助教授

目 次

総 論

I. 診断総論	1
1. 診断についての4本の柱	1
2. 診断についての考え方	2
a. 主観的診断から客観的診断へ	2
b. 形態的診断と機能的診断	2
3. 症状	2
a. 症候と徴候	2
b. 対症診断	2
4. 問診の注意とコツ	3
a. 患者との最初の出会い	3
b. 聞くのではない, 尋ねるのである	3
c. 主訴は患者自身の言葉で記載せよ	3
d. 現病歴問診のポイント	4
e. 既往歴と家族歴	4
f. 問診の時間	4
g. 内容の整理	4
h. 直接問診と間接問診	4
5. 診察のすすめ方	5
a. 視診	5
b. 触診	5
c. 打診・聴診	5
d. 診察時五つのポイント	6
6. 臨床検査に対する考え方	6
a. 内科医の基本的態度	6
b. 正常値の考え方	7
c. 臨床検査の役割	7
II. 治療総論	8
1. 治療の心構え	8
2. 治療方法の種類	8
a. 原因療法	8
b. 対症療法	8
c. リハビリテーション療法	9
d. 生活指導	9
3. 薬剤の使い方	9
III. 診療記録作成にあたって	10
1. 病歴の位置づけ	10
2. 病歴の内容	11

a. 病歴に関する問題提起	11
b. 患者の全体像	11
c. 病歴のとり方の反省	11
d. コンピューターによる病歴作り	13
e. システムレビュー	13
3. 診察の順序とその記載	13
4. 診断のプロセス	18
a. 診断確実度	19
b. 病気の実態の理解	19
c. 病態相互の関係	20
IV. 新しい診療記録の方法	20
1. PO システム	21
2. PO システムの理念と構造	21
3. 問題志向診療記録の作成	22
a. 基礎データ	22
b. 問題リスト	22
c. 初期の計画	24
4. POMR の監査	26
5. 記録の修正	26
V. 水と電解質の障害	28
1. 体液の生理	28
a. 体液とは	28
b. 体液の調節	28
c. 酸塩基平衡の調節	30
d. 電解質代謝と酸塩基平衡との関係	30
2. 体液の異常とその対策	31
a. 脱水症	31
b. 浮腫	33
c. 水中毒	33
d. Na の異常	34
e. K の異常	34
f. Ca の異常	34
g. Mg の異常	35
h. アシドーシスとアルカローシス	35
3. 安全な輸液	36
4. 水・電解質治療へのアプローチ	38
VI. 皮膚病変のみかた	39
1. 紅斑	39

4 目 次

a. 顔の蝶型紅斑	39	3. びまん性汎細気管支炎	85
b. 滲出性紅斑	39	4. 肺気腫症	86
c. 網の目状紅斑	40	Ⅲ. 拘束障害性肺疾患	89
2. 血管拡張	40	1. びまん性間質性肺炎および肺線維症	89
3. 色素斑ないし色素沈着	40	2. じん肺症	91
4. 白斑ないし色素脱出	41	Ⅳ. 肺腫瘍	93
5. 紫斑	41	1. 原発性肺癌	93
6. 膨疹	41	a. 扁平上皮癌あるいは類表皮癌	94
7. 丘疹	42	b. 大細胞癌	94
8. 結節	42	c. 腺癌	95
a. 四肢の関節周囲の結節	42	d. 小細胞未分化癌	96
b. 皮下の炎症性の結節	42	e. 悪性度の低い肺癌; カルシノイド および気管支腺腫瘍	96
9. びらん, 潰瘍	42	2. 転移性肺腫瘍	97
10. 硬皮	43	Ⅴ. 嚢胞形成性肺疾患	99
11. レイノー症状	43	1. 気管支拡張症	99
Ⅶ. 眼底のみかた	43	2. 嚢胞性肺疾患	102
a. 眼底検査の意味	43	Ⅵ. 肺循環障害	104
b. 直像検眼鏡	43	1. 肺塞栓症	104
c. 眼底検査の順序	45	2. 肺水腫	105
d. 所見の記載	45	3. 肺性心	106
Ⅷ. 内科的救急患者のみかた	47	Ⅶ. 寄生虫性肺疾患	108
1. ショック状態	48	1. 肺ジストマ症	108
2. 昏睡状態	49	2. アメーバ性膿胸および肺膿瘍	109
3. 急性腹部疼痛	50	3. 肺トキソプラズマ症	109
4. うっ血性心不全による急性肺水腫	50	4. 肺包虫症	109
5. 急性肺塞栓	52	5. 肺住血吸虫症	110
6. アナフィラキシー	53	6. 線虫類による肺感染	110
呼吸器疾患		7. 肺囊虫症	110
総論	55	8. 肺ダニ症	110
Ⅰ. 感染性呼吸器疾患	61	9. Pneumocystis carinii pneumonia	110
1. 上気道炎	61	Ⅷ. サルコイドーシス	111
2. 各種ウイルス感染症	63	Ⅸ. 中葉症候群	113
3. インフルエンザ	66	Ⅹ. 無気肺	114
4. 細菌性肺炎	67	Ⅺ. レフレル症候群	115
5. マイコプラズマ肺炎	70	Ⅻ. 過剰換気症候群	116
6. 肺化膿症	71	Ⅼ. 比較的まれな疾患	117
7. 結核	73	1. 肺胞蛋白症	117
8. 非定型抗酸菌症	76	2. グッドパスチャー症候群	119
9. 肺真菌症	76	3. ウェジナー症候群	120
Ⅱ. 慢性閉塞性肺疾患	78	4. 肺 histiocytosis X	120
1. 気管支喘息	80		
2. 慢性気管支炎	83		

5. 肺形成不全症	121
6. 特発性肺血鉄症	122
7. 肺胞微石症	123
8. ピックウィック症候群	124
9. ピラミッド胸	125

XIV. 胸膜疾患 127

1. 自然気胸	127
2. 胸膜炎, 膿胸	129
a. 乾性胸膜炎	130
b. 滲出性胸膜炎	131
1) 結核性胸膜炎	131
2) 膿胸	131
3. 胸膜腫瘍	132
a. 原発性胸膜腫瘍	132
1) びまん性中皮腫	132
2) 限局性中皮腫	132
b. 転移性胸膜腫瘍	133

XV. 縦隔疾患 133

1. 縦隔腫瘍	133
2. 縦隔炎	138
3. 縦隔気腫	139

XVI. 横隔膜疾患 139

1. 横隔膜ヘルニア	139
2. 横隔膜炎	139
3. 横隔膜麻痺	140

循環器疾患

総論 141

I. 先天性心疾患 150

1. 心房中隔欠損	150
2. 心室中隔欠損	152
3. 動脈管開存	154
4. アイゼンメンガー症候群	155
5. 肺動脈狭窄	157
6. ファロー四徴	159
7. 大動脈狭窄	160
8. その他の重要な先天性心疾患	161
a. エプスタイン奇形	161
b. 三尖弁閉鎖	162
c. 大血管転位	162
d. 総動脈幹	162
e. 大動脈縮窄	163
f. バルサルバ洞動脈瘤	163

g. 冠動脈奇形	163
h. 肺動脈弁閉鎖不全	164
i. 肺動静脈瘻	164
j. 右胸心および他の心位置異常	164

II. 後天性心疾患 164

1. リウマチ熱	164
2. 僧帽弁狭窄症	167
3. 僧帽弁閉鎖不全	170
4. 大動脈弁狭窄	173
5. 大動脈弁閉鎖不全	177
6. 三尖弁狭窄	179
7. 三尖弁閉鎖不全	180
8. 細菌性心内膜炎	181

III. 虚血性心疾患 185

1. 狭心症	185
2. 心筋硬塞	188
3. うっ血性心不全	191

IV. 不整脈 195

1. 期外収縮	195
2. 発作性頻拍	196
a. 発作性上室性頻拍	197
b. 心室頻拍	198
3. 心房細動	198
4. 心房粗動	200

V. 伝導の障害 201

1. 洞房ブロック	201
2. 房室ブロック	202
3. 心停止	205

VI. 心膜疾患 207

1. 急性心膜炎	207
2. 慢性収縮性心膜炎	208

VII. 心筋疾患 209

1. 特発性心筋症	209
2. 続発性心筋疾患	211
1) 心筋炎	211
2) 神経筋および神経疾患	211
3) 膠原病	211
4) サルコイドーシス	211
5) ハーラー症候群	211
6) アミロイドーシス	211
7) 原発性および転移性腫瘍	212
8) 代謝異常	212
3. 特発性肥大型大動脈弁下狭窄症	212

6 目次

VIII. 血圧異常	214	4. 食道憩室	255
1. 本態性高血圧症	214	a. ツェンカア憩室	256
2. 低血圧症	216	b. 気管分岐部憩室	256
IX. 動脈疾患	218	c. 横隔膜上部憩室	256
1. 動脈硬化症	218	5. 食道炎とその他	257
2. 大動脈瘤	221	a. 食道炎	257
3. 大動脈炎症候群	222	b. 食道潰瘍	257
4. 解離性大動脈瘤	224	c. マロリー・ワイス症候群	257
5. 大動脈縮窄症	227	d. 膠原病と食道	258
6. 動脈塞栓症	229	III. 胃疾患	258
7. 動脈血栓症	230	1. 急性胃炎	258
X. 静脈疾患	231	2. 慢性胃炎	259
1. 上大静脈症候群	231	3. 急性胃拡張	261
2. 血栓性静脈炎	233	4. 消化性潰瘍	262
3. 静脈瘤	285	a. 胃潰瘍	262
XI. リンパ管疾患	236	b. 十二指腸潰瘍	264
1. リンパ管炎	236	5. ゴーリンジャー・エリソン症候群	266
2. リンパ節炎	237	6. 胃ポリープ	268
3. リンパ浮腫	237	7. 胃粘膜下腫瘍	269
XII. 血管けいれん性疾患	238	8. 胃癌	270
1. レイノー現象, レイノー病, レイノー症候群	238	9. 胃下垂症	273
2. 先端紫藍症	240	10. 過酸症	274
3. 肢端紅痛症	241	11. 胃切除後症候群	276
XIII. クインケ浮腫	241	a. ダンピング症候群	276
XIV. 心臓の腫瘍	242	b. 食後後期低血糖症	277
		c. 輸入脚症候群	277
		d. 術後の栄養障害と貧血	278
		12. 胃神経症	278
		a. 神経性食欲不振症	278
		b. 神経性嘔吐	279
		IV. 腸疾患	279
消化器疾患		1. 急性腸炎	279
総論	245	2. 慢性腸炎	280
I. 口腔・咽頭疾患	249	3. 限局性腸炎と非特異性多発性小腸潰瘍症	281
1. 口内炎	249	a. 限局性腸炎	281
2. 舌炎	250	b. 非特異性多発性小腸潰瘍症	282
II. 食道疾患	251	4. 潰瘍性大腸炎	282
1. 食道狭窄	251	5. 腸結核	285
a. 食道癌	251	6. 過敏性大腸症候群	286
b. その他の悪性腫瘍	252	7. イレウス	288
c. 良性腫瘍	252	8. 巨大結腸症	289
d. その他の良性狭窄	253	a. 先天性巨大結腸症	290
2. アカラジア	253	b. 症候性巨大結腸症	290
3. 食道裂口ヘルニア	255	c. 特発性巨大結腸症	290
		9. 大腸ポリープ	290

10. 大腸癌	291
11. 腸管癒着症	293
12. 消化管憩室	295
13. 消化管アレルギー	296
14. 乳糖不耐症	297
15. 慢性便秘	299
16. 慢性下痢	302
17. 蛋白漏出性胃腸症	303
18. 吸収不良症候群	306
19. 虫垂炎	310
20. 盲係蹄症候群	311
21. 腸間膜動脈閉塞症	313
22. 偽膜性全腸炎	313
V. 肝疾患	314
1. 急性肝炎	314
2. 慢性肝炎	317
3. 劇症肝炎	319
4. 脂肪肝	322
5. 肝硬変	323
6. 肝性昏睡	325
7. 肝腎症候群	327
8. 肝膿瘍	328
a. 化膿性肝膿瘍	328
b. アメーバ性肝膿瘍	329
9. 肝癌	329
10. 門脈血栓症	333
11. 肝静脈閉塞性疾患	334
12. バッド・キャリー症候群	334
13. 体質性黄疸	366
a. 非抱合型体質性黄疸	366
b. 抱合型体質性黄疸	367
1) デュビン・ジョンソン症候群	337
2) ローター型高ビリルビン血症	338
14. ルポイド肝炎	338
15. 薬物性肝障害	339
VI. 胆道疾患	343
1. 胆嚢炎	343
2. 胆石症	344
3. 胆嚢・胆道癌	346
a. 胆嚢癌	346
b. 胆管癌	347
c. 膨大部癌	347
4. 胆道シスキネジー	348
5. 先天性総胆管拡張症	349

VII. 脾疾患	350
1. 急性脾炎	350
2. 慢性脾炎	352
3. 脾癌	354
4. 脾嚢胞	355
VIII. 腹膜疾患	356
1. 急性腹膜疾患	356
1) 急性汎発性腹膜炎	356
2) 急性限局性腹膜炎	357
2. 慢性腹膜疾患	358
1) 慢性限局性腹膜炎	358
2) 結核性腹膜炎	358
3) 腹膜の良性腫瘍	359
3. 横隔膜下膿瘍	359
代謝・栄養疾患	
総論	361
I. 糖代謝異常	364
1. 糖尿病	364
2. 低血糖症	371
3. インスリノーマ	373
II. 脂質代謝異常	374
1. 高脂血症	374
2. 肥満症	376
III. 蛋白代謝異常	378
1. 低蛋白血症	378
2. アミロイドーシス	380
IV. 尿酸代謝異常	381
V. その他の代謝異常	383
1. ビタミン欠乏症	383
a. ビタミンA欠乏症	383
b. くる病	384
c. 脚気	384
d. ビタミンB ₂ 欠乏症	385
e. ベラグラ	385
f. 壊血病	385
2. ボルフィリン症	386
a. 骨髄性ボルフィリン症	386
1) 先天性ボルフィリン症	386
2) 骨髄性プロトボルフィリン症	386
b. 肝性ボルフィリン症	386
1) 急性ボルフィリン症	386
2) 晩発性皮膚ボルフィリン症	387
3. ヘモクロマトーシス	387

8 目 次

4. 骨粗鬆症	388
5. 骨軟化症	389
VI. 先天性代謝疾患	390
1. 先天性代謝疾患	390
2. 腭嚢胞性線維症	398
3. マルファン症候群	399
内分泌疾患	
総論	401
I. 甲状腺疾患	406
1. 甲状腺機能亢進症	406
2. 甲状腺機能低下症	409
3. 非中毒性甲状腺腫	41
4. 甲状腺腫瘍	412
5. 急性甲状腺炎	413
6. 亜急性甲状腺炎	414
7. 慢性甲状腺炎	415
8. 甲状腺クリーゼ	417
II. 副甲状腺疾患	418
1. 副甲状腺機能亢進症	418
2. 副甲状腺機能低下症	419
III. 下垂体機能障害	420
1. 末端肥大症, 下垂体性巨人症	420
2. 下垂体機能低下症, 下垂体ホルモン 単独欠損症	422
3. 下垂体性小人症	424
4. 尿崩症	425
5. 抗利尿ホルモン不適分泌症候群	426
IV. 副腎疾患	427
1. 急性副腎不全	427
2. アジソン病	428
3. アルドステロン症	430
a. 原発性アルドステロン症	430
b. 続発性アルドステロン症	432
4. クッシング症候群	432
5. 副腎性器症候群	434
a. 副腎性男性化症候群	435
b. 副腎性女性化症候群	435
6. 褐色細胞腫	436
V. 性腺疾患	437
1. 睾丸疾患	437
a. 睾丸機能低下症	437

b. 睾丸機能亢進症	438
c. 睾丸腫瘍	438
2. 卵巣疾患	438
a. 卵巣機能低下症	438
b. 卵巣機能亢進症	439
c. 卵巣腫瘍	439
VI. 松果体疾患	439
血液・造血器疾患	
総論	441
I. 鉄代謝異常による貧血	444
1. 鉄欠乏性貧血	445
2. 無トランスフェリン血症	448
3. 鉄芽球性貧血	448
II. 巨赤芽球性貧血	450
1. 悪性貧血	451
2. その他の巨赤芽球性貧血	453
III. 骨髓低形成による貧血	454
1. 再生不良性貧血	455
2. 赤芽球癆	457
3. ファンコニ症候群	458
IV. 溶血性貧血	458
1. 遺伝性球状赤血球症	459
2. 酵素欠損による遺伝性溶血性貧血	460
a. グルコース-6-リン酸脱水素酵素 欠乏症	462
b. ビルビン酸キナーゼ欠乏症	462
3. 発作性夜間血色素尿症	462
4. 赤血球の機械的障害による溶血性貧血	463
5. 自己免疫性溶血性貧血	464
V. その他の貧血症	466
1. 症候性慢性貧血	466
2. バンチ症候群	470
VI. 赤血球増加症	472
1. 真性赤血球増加症	472
2. 2次性赤血球増加症	474
VII. 白血病と類縁疾患	475
1. 急性白血病	476
2. 赤白血病	479
3. 慢性骨髄性白血病	480
4. 慢性リンパ性白血病	482

5. 顆粒球減少症	483
6. 類白血病反応	485
7. 骨髓線維症	486
a. 原発性骨髓線維症	486
b. 続発性骨髓線維症	487
VII. 悪性リンパ腫	487
1. ホジキン病	491
2. リンパ肉腫	493
3. 細網肉腫	493
4. 巨大濾胞性リンパ腫	494
5. パーキットリンパ腫	494
IX. 骨髓腫と類縁疾患	494
1. 骨髓腫	496
2. 原発性マクログロブリン血症	498
3. heavy chain 病	499
a. IgG heavy chain 病	499
b. IgA heavy chain 病	499
c. IgM heavy chain 病	499
X. ヘモグロビン異常症	499
1. 異常ヘモグロビン症	500
a. 鎌状赤血球貧血症	502
b. 不安定ヘモグロビン症	504
c. チアフィーゼを呈する異常ヘモグロビン	505
d. 赤血球増加症をきたす異常ヘモグロビン	506
2. サラセミア	507
XI. 紫斑病	510
1. 血管性紫斑病	511
a. シェーンライン・ヘノーホ紫斑病	511
b. 遺伝性出血性末梢血管拡張症	512
2. 血小板減少性紫斑病	513
a. 特発性血小板減少性紫斑病	513
b. 血栓性血小板減少性紫斑病	514
3. 血小板血病	515
4. 血小板無力症	516
5. フォン・ウィルブラント病	517
6. 循環抗凝固因子による出血素因	518
7. 先天性出血性血管拡張症	518
8. 線維素溶解性紫斑病	519
XII. 凝固因子欠乏症	519
1. 血友病	520
2. その他の遺伝性凝固因子欠乏	523
3. 凝固因子の分子異常による出血素因	525
4. 播種性血管内凝固	525

腎・尿路疾患

総論	529
I. 腎・尿路疾患	532
1. 急性糸球体腎炎	532
2. 慢性糸球体腎炎	534
3. 急性腎不全	537
4. 慢性腎不全	539
5. ネフローゼ症候群	542
6. 細動脈性腎硬化症	545
7. 腎性高血圧症	547
8. 妊娠腎	549
9. 遺伝性腎疾患	551
a. 遺伝性腎炎	551
b. 先天性ネフローゼ症候群	552
c. 家族性若年性ネフロン病	553
10. 嚢胞腎	553
11. 遊走腎	554
12. 腎腫瘍	555
a. 腎被膜腫瘍	555
b. 腎実質腫瘍	556
1) 腎癌	556
2) ウィルムス腫瘍, 胎生期混合腫瘍	557
c. 腎盂腫瘍	558
1) 乳頭状癌	558
2) 扁平上皮癌	558
13. 腎・尿管結石	558
14. 水腎症	561
15. 腎盂腎炎	563
16. 膿腎症	565
17. 腎周囲炎	566
18. 腎・膀胱結核	567
II. 膀胱・尿道疾患	568
1. 膀胱腫瘍	568
2. 膀胱・尿道結石	569
a. 膀胱結石	569
b. 尿道結石	570
3. 膀胱炎	571
4. 前立腺炎	572
5. 前立腺肥大症	574
6. 前立腺癌	575
7. 睪丸腫瘍	577
III. その他	578
1. 乳糜尿	578
2. 人工腎臓	579

神経系疾患

総論 583

I. 脳・脊髄の血管障害 587

1. 脳出血 591
2. 脳硬塞 594
 - a. 脳血栓 595
 - b. 脳塞栓 600
3. 一過性脳虚血 601
4. くも膜下出血 603
5. 高血圧性脳症 605
6. 硬膜下血腫 606
7. 脳動脈硬化症 607
8. 側頭動脈炎 608
9. 脳静脈洞および脳静脈血栓 609
 - a. 外側静脈洞血栓 610
 - b. 海綿静脈洞血栓 610
 - c. 上矢状静脈洞血栓 610
 - d. その他の硬膜静脈洞および静脈血栓 611
10. 脊髄虚血, 脊髄血管不全 611
11. 脊髄出血, 脊髄血栓 612
 - a. 脊髄動脈血栓 612
 - b. 脊髄出血 613

II. 中枢神経の腫瘍 613

1. 頭蓋内腫瘍 613
2. 脊髄腫瘍 615

III. 中枢神経の感染性疾患 617

1. 髄膜炎 617
2. 脳炎 617
3. 脳膿瘍 617
4. ポリオ 618
5. 神経梅毒 618

IV. 脱髄性疾患 620

1. 多発性硬化症 620
2. 急性散在性脳脊髄炎 622
3. いわゆる脊髄炎 623

V. 神経の変性疾患 625

1. パーキンソン病 625
2. 舞蹈病 627
3. ヘミバリスム 628
4. アテトーゼ 629
5. 肝レンズ核変性症 630
6. 脊髄小脳変性症 631

7. 筋萎縮性側索硬化症 633

8. 脊髄空洞症, 延髄空洞症 635

9. シャルコー・マリー・トゥース病 636

VI. 末梢神経障害 637

1. 多発神経炎 637
2. 末梢性顔面神経麻痺 640
3. 顔面けいれん 641
4. 頸腕症候群 642
5. 坐骨神経痛 643
6. 手根管症候群 644

VII. ミオパチー 645

1. 進行性筋ジストロフィー症 645
 - a. デュシャンヌ型筋ジストロフィー症 646
 - b. 肢帯型筋ジストロフィー症 646
 - c. 顔面肩甲上膊型筋ジストロフィー症 647
 - d. 先天性筋ジストロフィー症 647
 - e. 遠位筋型筋ジストロフィー症 647
 - f. 眼筋型筋ジストロフィー症 648
2. 重症筋無力症 649
3. 筋強直性ジストロフィー症および
先天性筋強直症 651
4. 周期性四肢麻痺 653
5. 多発性筋炎 654

VIII. 機能的疾患 656

1. てんかん 656
2. ナルコレプシー 658
3. 慢性頭痛 659
4. メニエール症候群 661

IX. 内科疾患に伴う神経症状 662

1. 甲状腺ミオパチー 662
 - a. 甲状腺中毒性ミオパチー 662
 - b. 重症筋無力症 663
 - c. 周期性四肢麻痺 663
 - d. 眼球突出性眼筋麻痺 663
 - e. ホフマン症候群 663
2. 膠原病に伴う神経症状 664
 - a. 全身性エリテマトーデス 664
 - b. 結節性動脈周囲炎, 強皮症,
慢性関節リウマチ 664
 - c. 皮膚筋炎 665
 - d. リウマチ熱 665
 - e. 側頭動脈炎 665
 - f. 血栓性栓球減少性紫斑病 665
 - g. ベーチェット病 665

h. ウェジナー肉芽腫症	665
i. シェグレン症候群	666
3. 癌性ニューロミオパチー	666
a. 脳症	666
b. 脊髄症	667
c. 末梢性ニューロパチー	667
d. ミオパチー	667
4. 亜急性連合性脊髄変性症	668
5. 肺性脳症	669
6. 尿毒症ニューロパチー	670
7. スモン	671
8. 副腎皮質ステロイドホルモンによる 神経筋症状	673
a. 精神障害	673
b. けいれん	673
c. 脳圧亢進	673
d. 神経系の感染誘発	674
e. ミオパチー	674
X. 精神障害と近縁疾患	675
1. 仮面うつ病	675
2. 心身症	676
3. 不定愁訴症候群と自律神経失調症	677
4. 不眠	677
5. 痴呆	678
a. 初老期痴呆	678
1) アルツハイマー病	678
2) ビック病	679
3) クロイツフェルト・ヤコブ病	679
b. 動脈硬化性痴呆	680
c. 老人痴呆	680

アレルギー性疾患・膠原病・免疫病

I. アレルギー性疾患	681
総論 1. アレルギーの臨床	681
総論 2. アレルギーと心身医学	684
1. 花粉症	686
2. じん麻疹	687
3. アナフィラキシー	688
4. 気管支喘息	689
5. 鼻アレルギー	689
6. 血清病	690
II. 膠原病	691
総論	691
1. 慢性関節リウマチ	692
2. リウマチ熱	695

3. 全身性エリテマトーデス	695
4. 皮膚筋炎, 多発性筋炎	698
5. 全身性硬化症	700
6. 結節性多発性動脈炎	703
7. 膠原病類似疾患	705
a. ベーチェット病	705
b. シェグレン症候群	706
c. ウェジナー症候群, ウェジナー 肉芽腫症	708

III. 免疫病

総論	708
1. 免疫抑制療法	709
2. 先天性無 γ -グロブリン血症	713
3. 毛細血管拡張性失調症	714
4. ウィスコット・アルドリッチ症候群	715
5. 胸腺無形成, ディジョージ症候群	716
6. 合併型免疫不全症	716
a. スイス型無 γ -グロブリン血症	717
b. 胸腺リンパ系低形成性低 γ -グロ ブリン血症	717

感染症・寄生虫疾患

I. 感染症	719
1. 腸チフス・パラチフス	719
2. 細菌性赤痢	721
3. アメーバ赤痢	723
4. コレラ	724
5. 痘瘡	725
6. 猩紅熱	726
7. ジフテリア	728
8. 細菌性食中毒	729
9. 日本脳炎	731
10. 髄膜炎	733
a. 髄膜炎菌性髄膜炎	733
b. その他の細菌性髄膜炎	733
c. 結核性髄膜炎	734
d. 真菌性髄膜炎	734
e. レプトスピラ性髄膜炎	734
f. ウイルス性髄膜炎	735
g. その他の髄膜炎	736
11. ポリオ	737
12. インフルエンザ	738
13. 流行性耳下腺炎	738
14. 破傷風	739
15. 伝染性単核球症, 腺熱, 腺熱リケッチア症	740